

梅の実学級1組 道徳科学習指導案

令和4年1月15日(土)

梅の実1組 5名 授業者 川戸 宣子

- 1 主題名 みんながにこにこ
- 2 教材名 「みんなのこうえん」 学研
- 3 ねらい みんなが使う場所で、すべての人が気持ちよく活動できるよう、必要な約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。
- 4 展開

	学習活動(主な発問と予想される児童の反応)	※指導上の留意点
導入	1 公共の場所について、どのような所があるかを考える。 ①みんなが使う場所には、どのような所がありますか。 ○教室 校庭 図書室 体育館 学校のトイレ 公園・・・	※学校や公園、道路など、みんなで使う場所の写真を用意して、確認しながら、公共の場所についてのイメージをもてるようにする。
展開	2 教材「みんなのこうえん」を見て、考えたことについて伝え合う。 ①公園で、どの人が、楽しく、にこにこして過ごさせているでしょう。 ○赤ちゃんとお母さん ○お母さんと小さい子 ○砂場で遊んでいる子 ○おじいちゃんとおばあちゃん ○ベンチに立っている女の子 ②公園で、困っている人、怒っている人、悪いことをしている人は、どの人だと思いますか。 ○ブランコに怒っている人がいる。 ○ベンチの女の子の人が困っている。 ○滑り台に困っている人と怒っている人がいる。 ○滑り台を反対から上っている ○ごみを散らかしている人がいる。 ③どうして困っていたり、怒っていたり、悪いことをしたりしているのでしょうか。 ○ブランコの取り合いになったから。 ○ベンチが汚れるから。 ○滑り台を反対から上るとぶつかるから。 ○楽しいから、面倒くさくなってごみを捨ててしまった。 ④どうしたら、みんながにこにこして過ごせるでしょう。 ○ブランコに交代で乗ればいい。 ○ベンチには靴で立たないようにする。 ○悪いことをしたら、「ごめんなさい。」と言う。 ○「だめだよ。」と教えてあげる。 ○ごみはゴミ箱に捨てる。 ○座って食べる。 3 今までに、きまりを守ろうと努力した経験、できなかった経験を振り返る。 ○チャイムがなったら遊びをやめた。 ○楽しくて、遊びの時間が終わっても、時間を守らなかった。 ○滑り台を反対に上った。 ○椅子の上に足を上げた。	※教材の絵が描かれたワークシートを用意し、楽しく過ごしている人と、そうではない人について、シールで種類分けすることで、気持ちの違いについて明確にする。 ※ペアで考える時間を設け、友達と一緒に考えたり、友達と考えを伝え合ったりすることができるようにする。 ※どうして困らせるようなことや、悪いことをしてしまったのか、理由を考えさせることによって、多角的な視点で捉え、様々な立場を、共感的に捉えられるようにする。 ※いくつかの場面の役割演技に取り組ませることで、みんなが気持ちよく過ごせる方法について、実際に体験させながら、具体的にイメージをもたせることができるようにする。
終末	4 教師の説話を聞く。	※決まりを守れず、迷惑をかけていたことに気付いた経験を話す。

5 評価

- ・みんなが楽しく、気持ちよく過ごすために、周りの人のことを考え、約束や決まりを守って行動していかうとする気持ちをもつことができたか。

梅の実学級 2 組 道徳科学習指導案

令和 4 年 1 月 1 5 日 (土)

梅の実 2 組 7 名 授業者 志村 淳一

授業者 片貝 翔

- 1 主題名 友達のために
- 2 教材名 「ともだちやもんな、ぼくら」 東京書籍
- 3 ねらい 身近にいる友達と仲良く過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。
- 4 展開

	学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	※指導上の留意点
導入	<p>1 友達とのかかわりについて振り返る。</p> <p>①友達がいてよかったと思うときは、どんなときですか。</p> <p>○一緒に遊んだとき。</p> <p>○優しくしてくれたとき。</p>	<p>※経験を、ねらいとする価値へつなげる。</p>
展開	<p>2 教材「ともだちやもんな、ぼくら」を読んで、話し合う。</p> <p>①ヒデトシが逃げ出したとき、僕はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ずるいぞ。</p> <p>○自分だけひどいな。</p> <p>○もう友達やめる。</p> <p>②あなたが「ぼく」だったら、ヒデトシを助けに戻りますか。</p> <p>○友達だから戻るよ。</p> <p>○自分だけ逃げたから許せない。戻らないよ。</p> <p>○戻りたいけど、かみなりじいさんが怖いから…。</p> <p>③助けに戻ってよかったのは、なぜでしょう。</p> <p>○かみなりじいさんにほめられたから。</p> <p>○ヒデトシが喜んでくれたから。</p> <p>○自分も嬉しい。</p> <p>3 教材から自分の経験を振り返る。</p> <p>① 友達と仲良く過ごすために、できることはなんでしょう。</p> <p>○困っていたら助ける。</p> <p>○友達のことを考える。</p>	<p>※内容を理解するために、初めに登場人物の紹介、整理をする。また、教科書の内容の一部、原作の内容と挿絵を追加する。</p> <p>※内容が考えに影響するので、最後まで読まずに場面ごとに止め、その都度考えさせる。</p> <p>※モラルジレンマを用いて、多様な考えを引き出し、児童の考えを揺さぶる。</p> <p>※②で出た意見を基に考え、友達と助け合うことの価値へとつなげる。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>※友達と助け合った経験について話す。</p>

5 評価

- ・友達との関わりについて多面的・多角的に考え、友達と仲良く助け合っていこうとする心情を養うことができたか。

梅の実学級3組 道徳科学習指導案

令和4年1月15日(土)
梅の実3組 5名 授業者 矢野 彩子

- 1 主題名 勇気をもって
- 2 教材名 「おれた ものさし」 東京書籍
- 3 ねらい 正しい行動を愛し、それを行おうとする心情を育てる。
- 4 展開

	学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	※指導上の留意点
導入	<p>1 正しい行動について考える。</p> <p>①友達が悪いことをしているのに気付いたら、あなたはどうしますか。</p> <p>○友達に「やっちゃだめだよ。」と伝える。</p> <p>○気付いても、「だめ。」と言えないかもしれない。</p>	<p>※様々な考え方があることを確認する。</p>
展開	<p>2 教材「おれた ものさし」を読んで、話し合う。</p> <p>①のぼるがひろしにもものさしを持たせていたとき、「ぼく」はどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <p>○ひどい。のぼるが折ったのに。</p> <p>○ひろしのせいにするなんて、ずるいよ。</p> <p>○どうして人のせいにするんだ。</p> <p>②「ぼく」は、胸がどきっとしたとき、どんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>○のぼるが、また人のせいにしている。</p> <p>○ひろしは悪くないから、のぼるに「ダメ。」と言おう。</p> <p>○ひろしは助けたいけれど、のぼるが怖いから、何も言えないな。</p> <p>③折れたものさしを、ひろしから取ってのぼるに渡した「ぼく」は、どんな気持ちでしたか。</p> <p>○思い切って言ってよかった。</p> <p>○これからもちゃんと正しいことを言おう。</p> <p>○ちゃんと行って、ひろしを助けられてよかった。</p> <p>3 教材から自分の経験を振り返る。</p> <p>①正しいと思うことができたことは、ありますか。</p> <p>○友達とけんかをしたときに、謝りづらかったけれど、自分から謝って仲直りできた。</p> <p>○お家の人に嘘を付いてしまったけれど、その後、正直に伝えられた。</p>	<p>※登場人物と場面を紹介し、教材への関心を高める。</p> <p>※内容が考えに影響するので、最後まで読まずに場面ごとに止め、考えさせる。</p> <p>※役割演技をしながら、「ぼく」の気持ちを考えさせる。</p> <p>※必要であれば、役割演技に入り、児童の考えを揺さぶる意見を投げかけ、多様な考えを引き出す。</p> <p>※葛藤した末に、正しいと思う行動ができたことを捉えさせる。</p> <p>※教材に登場する「ぼく」のように、迷ったり、悩んだりしながら、正しいことができた経験を想起させる。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>※正しいと思うことが、すぐにできなかった経験について話す。</p>

5 評価

- ・正しい行動をとる難しさや良さについて、多面的・多角的に考え、勇気をもって正しい行動をとろうとする心情を養うことができたか。